

日本武尊の西征Ⅰ

景行天皇の九州遠征は、白鳥神社におさまった熊襲でしたが、再び反抗して領地を拡大しているとの情報が入りました。

景行天皇二十七年冬十月十二日、天皇は皇子の小碓に熊襲を討つよう命じました。この時小碓はまだ十六歳でした。小碓は兄に代わり天皇の後継者となるため名に「尊」の字をつけて小碓尊と呼ばれています。

『古事記』には「其御髪 結額也」とあり、小碓尊は髪を額のどこかで結っていたことがわかります。これは当時の少年がしている髪型だったと言われています。

景行天皇の遠征地に皇子を派遣して熊襲征伐



白鳥神社の絵馬 福岡県田川市猪国

景行天皇の征西から十二年後のことです。熊襲がまた騒ぎはじめました。そのため、熊襲を討つのが急務となりました。この時、征熊襲の將軍に指名されたのがまだ十六歳の小碓皇子でした。

「私は弓の名手を連れて行きたいと思っているが、どこかに弓を射つのが上手い者はいないだろうか。」

これを聞いた嫁衆が申し出ました。

「美濃の国に弟彦公という弓の名手がいます。」

小碓尊は葛城の宮戸彦を美濃に行かせ、弟彦公を連れてこさせました。弟彦公は石占横立と尾張の田子稻、乳近稻置らを伴ってやってきました。



小碓尊が戦うのは

熊襲と土蜘蛛

瀬戸内海を西に航行し九州北部に上陸した小碓尊ですが、熊襲との戦いの前に地方の賊徒「土蜘蛛」と呼ばれている集団と戦わねばなりませんでした。土蜘蛛らとの大きな戦いは熊襲との戦いの前に福岡県で、戦いの後に佐賀県で起こりました。

福岡県田川市で戦い



白鳥神社 福岡県田川市猪国

田川市には日本武尊を主祭神とする白鳥神社が二社あります。猪国の社は元は帝王山に鎮座していましたが、平安時代に現在地に遷り「王太子宮」と呼ばれていました。これはかつて景行天皇が九州

猪折を征討したことによるものです。小碓尊もここに派遣され、尊に反抗する土蜘蛛らを討ちました。この地にしばらく滞在し、弟彦公らと合流することのために待つていたと伝えられています。



太刀洗いの井戸 福岡県田川市猪国

猪国の白鳥神社の近くには太刀洗いの井戸があります。筑前から築後に抜ける猪膝街道はかつての裏街道でした。猪国の白鳥神社前を過ぎればらく歩いたところに井戸があります。



白角折神社

おとしり
白角折神社 佐賀県神埼市神埼町
日本武尊を祭神としています。熊襲征伐の折、日本武尊はこの神社のあるところから矢を射たと伝えられています。境内の大クスノキは樹齢が推定千年と言われ、佐賀県の天然記念物になっています。

九州北部には日本武尊が熊襲や土蜘蛛を征伐し、都にもどるために再び福岡県に戻ってきたことがわかる伝承があります。



白鳥神社 福岡県田川市白鳥

田川市白鳥の白鳥神社の祭神は日本武尊、景行天皇、大碓命です。伝教大師最澄は唐からの帰朝の折、海上の白鳥を見ました。船内で眠っている夢の中にこの白鳥が現れ、「我は日本武尊の化身」と言い、大師を守護するので高羽川沿いのところに日本武尊を祀るよう告げました。帰国した

この井戸で猪折を討った太刀を洗ったと言われています。干ばつの時も枯れることがなかったそうです。



八剣神社

八剣神社 福岡県遠賀郡水巻町
熊襲征伐の前、日本武尊はここに仮宮を建て滞在していました。その際、里の娘砧姫に身の回りの世話をさせていました。熊襲征伐を終えた日本武尊が再びここに帰ってくると砧姫は子を宿していました。再会した二人でしたが、尊は都に戻るため別なければなりません。尊は砧姫への変わらぬ愛を誓って仮宮に銀杏の木を植樹しました。東征に出かけて亡くなったことを知った砧姫は仮宮だったところに祠を建てました。



八剣神社



鳥野神社

鳥野神社 福岡県鞍手郡鞍手町
熊襲との戦いを終えて戻ってきたときに日本武尊が創始したと伝えられています。



浅木神社

浅木神社 福岡県遠賀郡遠賀町
日本武尊他を祭神としています。日本武尊が熊襲征伐の帰りに立ち寄ったとあります。その後飛鳥時代には斉明天皇も訪れたと伝えられています。

『日本書紀』

景行天皇十九年九月二十日

景行天皇は大和朝廷に従わなかった熊襲を討つため、十二年八月から九州南部に遠征していましたが、熊襲を成敗して大和の纏向日代宮に帰ってきました。

景行天皇二十五年七月三日

景行天皇は武内宿禰をよんで北陸地方や関東、東北地方の様子を見てくるように命じました。

景行天皇二十七年春二月十二日

武内宿禰が東国の各地を視察して帰ってきました。そして、天皇に報告しました。

「東国に日高見国があります。人々は男も女も髪を「みずら」結びし左右に分けて束ね耳上で結ぶ一埴輪に見られる、体に刺青を入れていて勇ましいです。この人たちを蝦夷といいますが、蝦夷が住んでいる土地は肥えているので、奪い取ってしまふべきです。」

景行天皇二十七年八月

熊襲が再び反抗して領地を拡大するようになりました。

景行天皇二十七年冬十月十三日

天皇は日本武尊に熊襲を討つよう命じました。この時日本武尊はまだ十六歳でした。

＊景行天皇には妃となった播磨稻日大郎姫との間には大碓皇子、小碓尊の兄弟が生まれています。（古事記では双子となっています）日本武尊は西征の途中でついた名です。出発時は小碓尊または日本童男と呼ばれていました。日本武尊は家来たちに尋ねました。

「私は弓の名手を連れて行きたいと思っているが、どこかに弓を射つのがうまい者はいないだろうか。」

これを聞いたある人が申し出ました。

「美濃の国に弟彦公という弓の名手がいいます。」

日本武尊は葛城の宮戸彦を美濃に行かせ、弟彦公を連れてこさせました。弟彦公は石占横立と尾張の田子稻置、乳近稻置を伴ってやってきました。

＊滋賀県大津市の建部大社の境内には日本武尊の一族と家臣が一堂に祀られています。建部大社は景行天皇四十六年に創建されたと伝わります。